

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000359		
法人名	有限会社敬愛サービス		
事業所名	グループホームななかまど大麻		
所在地	〒069-0841 江別市大麻元町1 9 2-2 8 (電 話) 011-388-7743		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月8日	評価確定日	平成22年3月12日

【情報提供票より】（平成22年1月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.6人

（2）建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000 円	その他の経費（月額）	20,000~28,000 円
敷 金	有（ 円）	<u>無</u>	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,200 円	

（4）利用者の概要（1月15日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低 77 歳	最高 99 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	野幌病院、桜台泌尿器科医院、野幌たちばな歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

石狩平野、札幌市の町並みが眼下に広がる小高い丘に立地している当事業所は、理念でもある「地域において人間らしい生活の継続」を大きな目標に掲げ、施設長や職員が、日夜認知症高齢者へのサービス提供や質の向上を探求している。高齢者の機能低下防止のために、あえてバリアを設置しているなど、アパートを改築した建物は随所に工夫が施されている。また、介護計画の策定から実行、記録、評価への一連の流れが定着している。運営推進会議の活性化により地域との交流が円滑になるとともに、市内事業所とも共催で行事やレクリエーションを開催するなど、事業所内外に向けて多角的に活動を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価における改善課題に対して、施設長及び他の職員は問題意識を持って取り組んでいる。前回外部評価後に話し合いを行い、対応が容易な課題から取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員それぞれが、日常のサービスの振り返りとして自己評価を実施しており、外部評価のための自己評価に留まらずサービスの質の向上や業務改善につなげるよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	定期的に運営推進会議を開催しており、会議を通じて家族や地域住民、町内会役員とも意見交換を活発に行っている。また、運営推進会議が活性化することにより、地域との交流を深めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	家族からの意見や要望、苦情への対応については、円滑に処理、対応を行っている。また、利用者家族と意見交換を行ったり、家族が行事へ参加している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域住民とは日常的に交流をしている。地域との関わりについては、町内会主催の温泉旅行や野外バーベキューなど各種行事に参加するほか、町内会からの依頼で回覧板には、事業所の記事を掲載できるスペースがあり、プライバシーが守れる範囲内において、事業所における利用者の生活の様子が伝わるようになっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームを地域密着の事業として捉え、「地域の中で人間らしく生活を継続する」という理念を掲げており、パンフレットや事業所内、重要事項説明書に明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長は全体会議や内部研修会などの職員の大半が集合する機会に、理念を具体的にわかりやすく説明している。また、理念は事業所内部に掲示されているほか、日誌の様式にも印刷しており、職員は日常的に理念に触れる機会が多い。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会役員が運営推進委員となっており、町内会の回覧板には事業所での出来事を紹介する面が確保され、地域に向けての啓発活動を行っている。また、町内会での温泉旅行や野外バーベキューなどの行事への参加や近隣の小中学校の行事への参加など、日常的に交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価を日常業務の振り返りを含めて実施し、その後管理者、施設長と内容について協議を行っている。前回の改善点に関しては、職員で話し合いを行い、改善できる項目から順次対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催している。会議では、地域住民、地域包括支援センター職員、利用者家族が参加し、事業所運営についての意見交換などを行っている。町内会との連携体制の確保に、会議が大きな役割を担っており、今日の地域交流につながっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者、生活保護担当者とは日常的に情報交換や意見交換、個別の利用者に関する具体的な調整などを行っている。また、市内におけるグループホーム代表者と月に1回程度意見交換を行う機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年間で6回程度機関紙を発行し、利用者の日常生活的な生活の様子を伝えている。また、個別には3ヶ月に一度詳細に報告している。金銭管理台帳なども定期的に送付し、家族が確認している。面会時に近況報告を行い、家族参加が可能な行事を設定し、家族が日常の様子に触れることができる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が発足し、行事への参加など運営に積極的に関わっているが、個別にサービスや運営に対する意見を申し立てる場面が少ない。	○	今後は、利用者や利用者家族に向けて、サービスの質の向上を目的としたアンケートの実施や運営に対して気軽に意見を出すことのできる仕組み、家族会を組織として明文化しサービスや運営に対する具体的な話し合いの場面を設けることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人が運営する事業所が他に市内に一ヶ所あり、相互の事業所の活性化や適材適所の配置、職員の技術向上を目的として、稀に職員の異動がある。しかし、職員は日常的に相互の事業所間を交流しており、利用者にとって大きな影響が発生しないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の参加や内部研修会を実施しているが、年間計画を策定しておらず、研修会参加の資料及び報告書について一部書類が未整備となっている。	○	研修の実施記録を事業所の中に常時設置し、職員による自主的な振り返りや、自己学習の啓発につなげることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム事業所の代表者と交流する機会があり、代表者や職員が相互に事業所を行き来したり、認知症の学習講演会を開催するなど、活発に交流を行っている。また、市内グループホーム対抗のパークゴルフ大会の開催など利用者対象の行事も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用を開始するにあたり、事前の見学を利用者の希望により行っている。また、事前面談や訪問も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が日常的に会話やコミュニケーションを図れるように配慮している。利用者と呼ぶときは、利用者が希望する呼称を用いており、利用者と職員がより親しく接するための工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念にも明示している「人間らしい生活」を念頭に置き、利用者や家族と話し合いの機会を多く設けて、できる限り利用者の思いに沿った援助を行うように対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を導入し、アセスメントを実施している。利用者1人あたり年4回のカンファレンスを実施し、随時家族からの意見や要望、利用者の希望などを介護計画へ反映することについて話し合っている。また、居室には介護計画を掲示しており、職員が確認を行いやすいほかに、家族や利用者が常に確認できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に評価を行い、介護計画を更新している。計画の評価や更新の際には職員の気づきや意見を取り入れて、利用者の状態に即した介護計画を策定している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が外出する機会を多く設けたり、家族が来訪時に宿泊ができるように支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師や職員と連携を図り、利用者の健康管理や受診支援を行っている。また、協力医療機関以外における受診についても、利用者家族と協議し、利用開始後も円滑に受診ができるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、事業所としての重度化への対応について説明を行い、文書により同意を交わしている。また、この内容については運営推進会議でも、第三者を交えて話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の権利を明文化し掲示しており、利用開始時に個人情報の取り扱いについての同意を文書で交わしている。職員は採用時に守秘義務に関する誓約書を法人と交わし、利用者の個人情報が漏洩しないような対策を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用開始時に利用者本人や家族がら聞き取りを行い、利用開始後には日常的な会話の中から生活歴を把握をするよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の資格がある職員が、高齢者向けの献立を立案している。また、利用者の希望で外食する所を決定したり、意見を取り入れて献立を変更するなど、臨機応変に対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴が可能であり、利用者の希望や身体状況などを把握して、入浴支援を行っている。また、失禁時などには清拭やシャワー浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各自が能力を活かし、食事の準備、洗濯、掃除を行っている。自立を促す意味で、職員が全てを行うのではなく、利用者も取り組むように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には、日常的に散歩を行い町内会の住民と挨拶を交わしている。また、通年で24回程度外食の日を設定し、冬でも外出する機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き開錠しており、センサーを設置し、外部からの無断の進入に対して配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春季に昼間想定、秋季に夜間想定 of 訓練に分けて防災訓練を実施している。また、運営推進会議で災害時における協力要請を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に各利用者の食事量や水分量、排泄、入浴、バイタル数値を記載している。また、食事に関して、協力医療機関の管理栄養士や医師に相談する体制を構築している。咀嚼や嚥下能力に応じて粥食や刻み食の提供を行い、栄養を確保できるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパートを改築した事業所は、認知症高齢者の生活のために随所に工夫している。また、リビングには旧式の薪ストーブがオブジェとして設置しており、利用者の目を楽しませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の思いや希望を優先し、利用開始以前に使用していたものを中心に様々な家具類を持ち込んでいる。		

※  は、重点項目。